

愛知県地球温暖化防止活動推進センターは、内閣総理大臣の要請を受けて中部電力浜岡原子力発電所の運転が停止されたことに伴い、中部電力管内の各地域センターと共同して「節電のお願い」を呼びかけています。

そこで、有識者の皆さまから、それぞれのお立場で「夏の節電」への思いを自由に語っていただくシリーズを始めました。

2回目は、中部7県の環境パートナーシップを促進する拠点である中部環境パートナーシップオフィス（EPO中部）のチーフプロデューサー新海洋子様にご登壇いただき、子どもたちへの環境教育について語っていただきました。

子どもたちの感性に響く「節電生活」を！

中部環境パートナーシップオフィス
新海 洋子

子どもたちと環境問題について話し合っていると、子どもたちの環境への意識が着実に高まっていること、知識や情報が豊富に培われていることを実感します。次のステップは、一方的に教えられたことを実践するだけではなく、「なぜ(Why)？」という思考を持って、環境問題の原因や解決する方法を探求する学習の展開が大切だと考えています。そのためには、家庭で子どもたちと交わすコミュニケーションがとても重要です。

そのきっかけの一つとして、今夏の節電にチャレンジしてはいかがでしょうか。例えば、家族で考えた節電アイデアを夏休みの旅行・キャンプ、ショッピングに取り入れる、夏休みの自由研究として「我が家自慢の節電便利グッズ」を作り出す、夏祭りなど子ども会や地域の行事の「節電化」を提案する、節電を機に普段当たり前に使っている電気の大切さや電気を作ることの大変さに気づくなど。子どもたちの「なぜ？」を引き出し、大人の経験と子どもの気づきやひらめきを組み合わせた、我が家の「夏休み節電計画」を是非立ててください。一味違った夏休みになるはずです。

友人からこんな話がありました。友人の子どもたちが夜、照明をつけずにお風呂に入っていたので、「どうしたの？」って聞くと、「まんまるのお月さまの光があるから十分だよ。節電、節電！」と声を合わせて返事があったそうです。暗いから電気をつけるという習性ではなく、月光の明るさを感じる、感性に響く空間の中に身を置くことが節電になっている、とても素敵な暮らしぶりです。この夏、子どもたちとの会話を楽しみながら「素敵な節電空間」を作ってみてください。



野外での手作り五右衛門風呂はいかが？